

「改訂第2版 薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト」訂正のお知らせ

ご好評をいただいております『改訂第2版 薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト』（監修：日本病院薬剤師会，日本臨床救急医学会／ISBN 978-4-89269-949-8）、下記の通り修正箇所がございますので、お知らせ申し上げます。

お客様には多大なご迷惑をお掛けいたしましたこと、伏してお詫び申し上げます。

【修正箇所】

p.29 II-2.「薬剤の適正使用と薬物動態」

修正箇所 左段下から3行目～右段6行目のパラグラフのうち、右段1行目の部分（下記、赤字の部分）が修正箇所）

（修正前）「濃度依存的な殺菌作用や PAE を有する抗菌薬は C_{max}/MIC や AUC/MIC が効果と相関し、最大効果を得るためには C_{max} を高くすることが重要である。

そのため、1回の投与量を増やすよりも、投与回数を増加させたり点滴時間を延長し、血中濃度が MIC を超える時間を延長させることが適しており、近年タゾバクタム/ピペラシリンの4時間点滴のエビデンスが確立しつつある」

（修正後）「濃度依存的な殺菌作用や PAE を有する抗菌薬は C_{max}/MIC や AUC/MIC が効果と相関し、最大効果を得るためには C_{max} を高くすることが重要である。

一方、 $\%T \geq MIC$ がパラメータとなる薬剤は、1回の投与量を増やすよりも、投与回数を増加させたり点滴時間を延長し、血中濃度が MIC を超える時間を延長させることが適しており、近年タゾバクタム/ピペラシリンの4時間点滴のエビデンスが確立しつつある」

なお、本訂正につきましては次回増刷時に反映予定です。